

四日市港港湾計画（素案）

（H21.3.10 現在）

平成21年3月
四日市港管理組合

—目 次—

1. 港湾計画改訂の方針	1
2. 港湾計画の範囲及び港湾空間の利用	4
3. 機能別の計画	7

1. 港湾計画改訂の方針

四日市港長期構想で描かれた3つの将来像「背後圏産業の発展を支えるみなと・四日市港」、「都市・住民とともにあるみなと・四日市港」、「環境にやさしいみなと・四日市港」の実現に向けて、平成30年代前半を目標年次とする港湾計画の中に、概ねこれからの10年間の間に、港湾管理者自らが、さらには関係者と連携・協働しながら着手したい、あるいは成果を挙げたいと考える取組を具体的に位置づけるため、港湾計画が求める物流、安全、交流、環境の4つの分野別に、下記方針のもと、既定港湾計画を改訂します。

【物流】

- **スーパー中枢港湾としての機能の充実・強化**
 - 増大するコンテナ貨物の取扱需要に対応するため、現行の霞ヶ浦北埠頭 80 号岸壁コンテナターミナルに連続する次世代高規格コンテナターミナルの形成を図ります。
 - 臨港道路霞 4 号幹線の整備を図るなど、臨港交通体系を充実します。
- **アジア域内物流への対応**
 - 今後増加するアジア域内物流に対応するため、霞ヶ浦北埠頭の港湾関連用地を中心としたエリアで、ロジスティクス機能の強化に努めます。
- **バルク貨物とエネルギー供給への対応と機能の充実・強化**
 - 霞ヶ浦南埠頭において、バルク貨物輸送の効率化・拠点化を図ります。
- **企業ニーズに対応した港湾サービスの提供**
 - 四日市地区及び霞ヶ浦地区において、物流を効率化するため、港湾施設利用の集約と再編を図ります。
 - 地球環境問題に対応した環境に優しい物流システムの構築に向けて、内航海運の活用や鉄道の活用など、グリーン物流の促進に努めます。

【安全】

- **港湾施設の計画的な維持管理**
 - 老朽化した港湾施設の確実な更新を進めます。
 - 港湾施設の計画的・効率的な維持・修繕に努めるとともに、耐震化などの改良を進めます。
- **船舶航行安全の確保**
 - 船舶の大型化に対応した岸壁、航路、泊地等港湾施設の適切な整備を進めます。
 - プレジャーボート等の小型船舶を適正に配置させるなど、港内航行安全の確保に努めます。
- **災害時における物流機能の確保**
 - 災害発生時においても物流機能を維持するために、霞ヶ浦地区及び四日市地区において耐震強化岸壁を新たに整備します。
 - 霞ヶ浦地区のリダンダンシーを確保するため、臨港道路霞 4 号幹線の整備を進めます。
- **災害復興活動への支援**
 - 緊急時の物資輸送や災害復興活動を支えるため、市街地に近い四日市地区において緊急物資輸送用岸壁等の防災拠点を新たに整備します。
 - 東海・東南海地震などの大規模災害時には、災害復興活動に資するため港湾空間を有効に利活用し、復興活動を支えます。

【交流】

- **人が憩う、港の拠点づくり**
 - 四日市地区では、四日市市をはじめ多様な主体との協働により、千歳運河や第一埠頭を拠点とする交流空間の形成を図ります。
- **人に親しまれるアメニティ豊かな港づくりの推進**
 - 人に親しまれるアメニティ豊かな港づくりを推進するため、既存緑地の質を高めるとともに、新しい港湾緑地の整備を進めます。
 - 港湾空間の魅力を向上させるため、朝明地区から霞ヶ浦地区にかけて点在する緑地などの親水空間のネットワーク化を図ります。
- **みなと観光の振興**
 - 港湾景観や船舶を活用した港らしさを感じる観光振興に努めます。

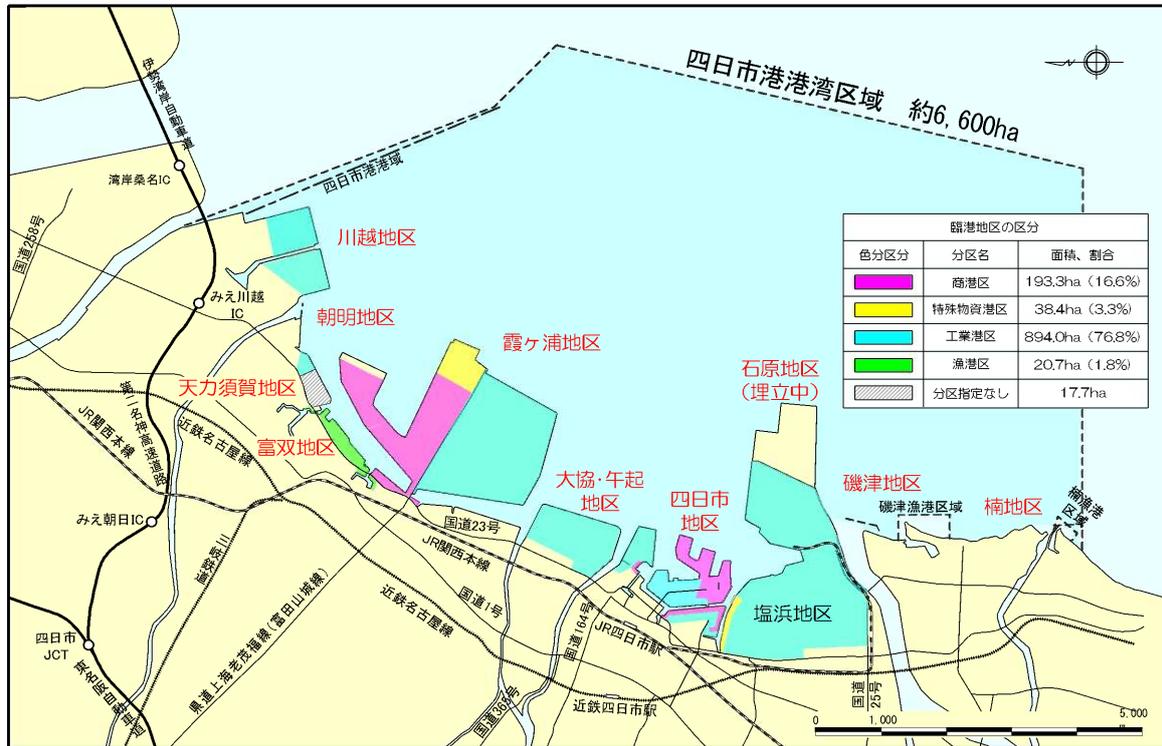
【環境】

- **自然海浜・干潟の保全**
 - 生態系の維持や生物多様性の確保のため、自然海浜や自然干潟の保全を図ります。
 - 石原地区の一般・産業廃棄物埋立区域を中心とするエリアなどにおいて、野鳥等が飛来する緑地を新たに整備します。
- **伊勢湾再生に貢献する海域環境の改善**
 - 自然環境豊かな港湾空間の形成のため、港内で藻場の再生を図るなど、海域環境の改善に努めます。
- **良好な港湾空間の保全・創出**
 - 四日市地区では、美しく魅力ある港湾空間を創出するため、多様な主体と連携しながら歴史的遺産や文化遺産、並びに貴重な港湾景観の保全を図ります。
- **地球環境問題(CO₂等削減)への対応**
 - 地球環境問題に対応した環境に優しい物流システムの構築に向けて、内航海運の活用や鉄道の活用など、グリーン物流の促進に努めます。(再掲)
 - 港内において、CO₂の吸収につながる緑地空間を確保するとともに、港湾運送事業者との連携のもと、港湾活動に伴い発生するCO₂の削減に努めます。
- **循環型社会構築への貢献**
 - 再生利用を目的として使用済み製品等の収集・運搬をする静脈物流を促進させるため、金属くず等の循環資源の取扱機能の確保を図ります。
- **地域の環境保全に貢献**
 - 港湾の開発によるみなとの環境の悪化を防止するため、環境に配慮した施設整備や保全のための取組を進めます。
 - 臨港交通体系の充実などにより、周辺道路の渋滞解消や騒音・振動、大気環境の改善に努めます。

2. 港湾計画の範囲及び港湾空間の利用

(1) 港湾計画の範囲

港湾計画の範囲は図に示すとおり、港湾区域約 6,600ha、陸域約 1,164ha とします。

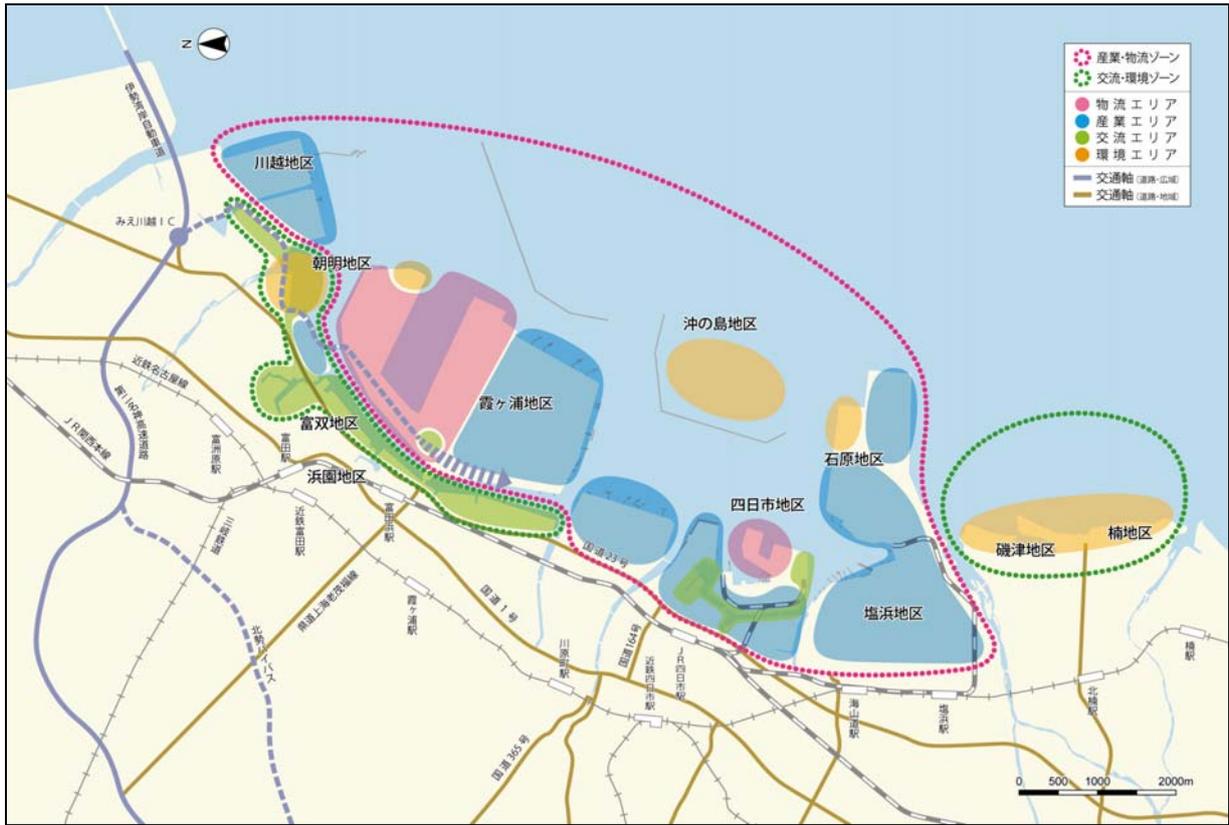


港湾計画の範囲

(2) 港湾空間利用ゾーニング

物流・交流・環境・安全の多様な機能を適正に配置し、効率性、快適性、安全性の高い港湾空間を形成するため、港湾空間を以下のように利用します。

- ①霞ヶ浦地区南埠頭及び北埠頭は、外貿コンテナと外貿バルクの取扱いを中心とした外貿機能の拠点として、物流関連ゾーンとする。
- ②四日市地区は、内貿バルクの取扱いを中心とした内貿機能の拠点として物流関連ゾーンとする。一方、千歳運河沿いを中心に交流拠点ゾーンを形成する。
- ③川越地区、天カ須賀地区、霞ヶ浦工業用地、四日市地区大協・午起及び塩浜地区は生産ゾーンとする。
- ④富双地区、浜園地区は緑地レクリエーションゾーンとする。
- ⑤朝明地区、霞ヶ浦地区北ふ頭先端部、磯津地区及び楠地区は環境保全ゾーンとする。
- ⑥石原地区は、一般・産業廃棄物埋立区域は環境保全ゾーン、浚渫土砂埋立区域は廃棄物処理ゾーンとする。
- ⑦楠地区の埋立区域は都市機能ゾーンとする。
- ⑧沖の島地区は留保ゾーンとする。



四日市港長期構想ゾーニング



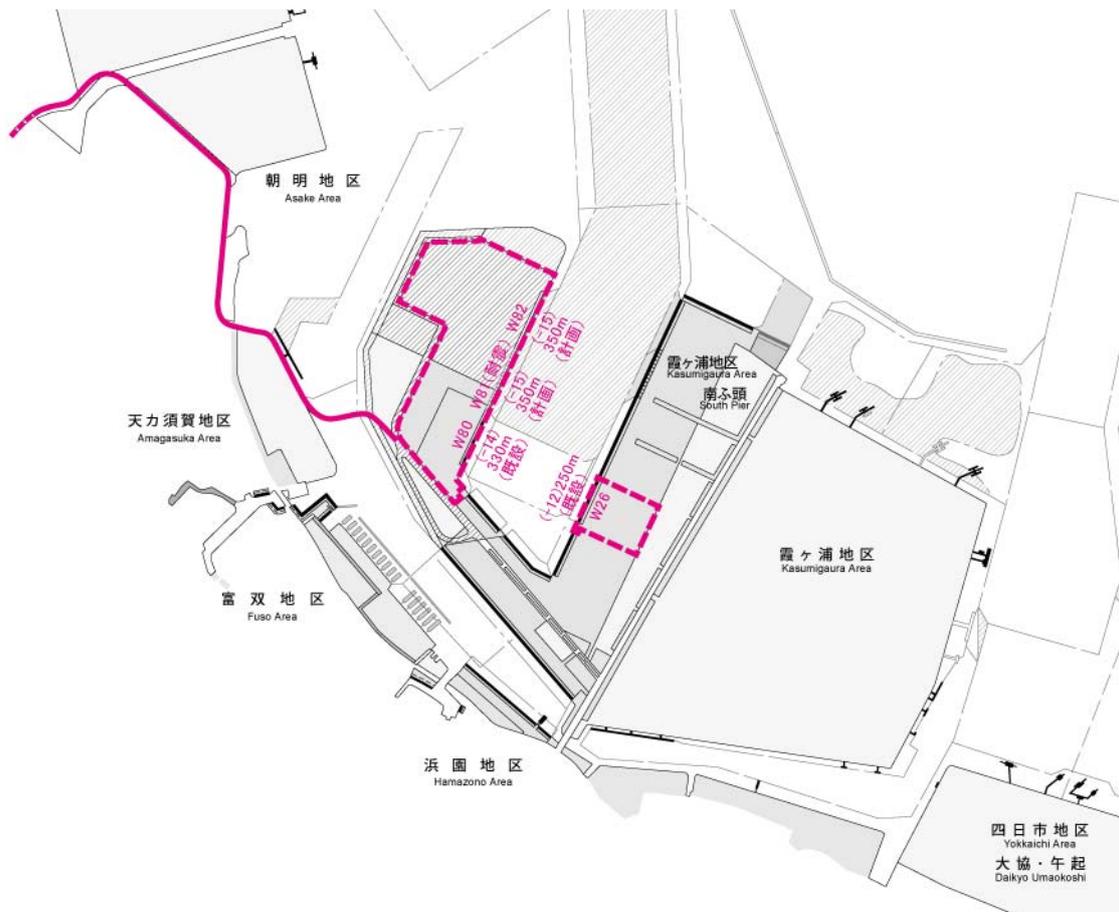
四日市港港湾計画ゾーニング

3. 機能別の計画

【物流】

■ スーパー中枢港湾としての機能の充実・強化 (公共埠頭計画、臨港交通施設計画、土地利用計画)

- 増大するコンテナ貨物の取扱需要に対応するため、現行の霞ヶ浦北埠頭 80 号岸壁コンテナターミナルに連続する次世代高規格コンテナターミナルの形成を図ります。
- 臨港道路霞 4 号幹線の整備を図るなど、臨港交通体系を充実します。



【環境の視点から】

- ・背後圏のコンテナ貨物を最寄港である四日市港で取扱うことは、陸上輸送にかかるCO₂排出量の削減に大きく寄与します。
- ・コンテナターミナルの荷役機械を省エネルギー化することは、荷役作業等の港湾活動に伴うCO₂排出量の削減に大きく寄与します。
- ・周辺道路の渋滞を解消することは、地域の環境改善に貢献します。
- ・霞ヶ浦北埠頭外周護岸等の整備において、生態系にも配慮した構造形式を採用することは、自然環境の保全・創造に貢献します。

【参考資料】

○貨物需要見通し

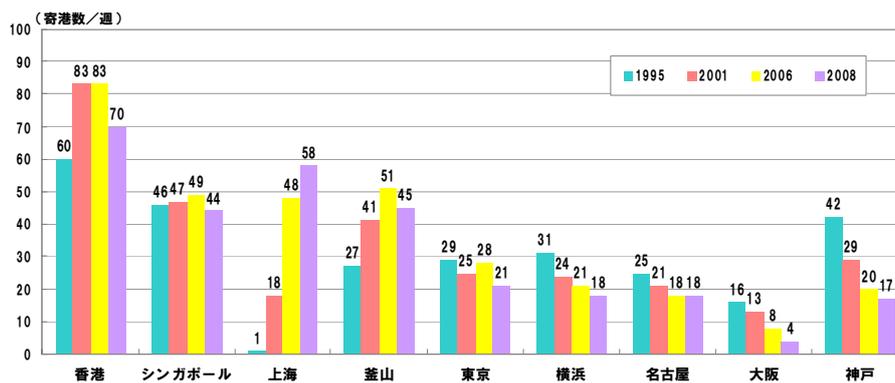
- ・背後圏からのコンテナ貨物の伸びや他港からの利用転換貨物の見通しをヒアリング調査したところ、目標年次（平成30年代前半）における四日市港のコンテナ貨物の推計値は、既定計画と同程度となる見通しです。

○背後圏産業の状況

- ・四日市港の背後圏には、臨海部コンビナートの石油化学を核とした素材・部材産業が立地し、さらに概ね1時間圏内の地域には半導体・液晶などの部材・部品産業、電機・情報や自動車などの加工組立産業が集積しています。
- ・これらの産業は、研究開発機能の集積も進んでおり、製品の高付加価値化、産業のイノベーション化が進められており、長期的にみても国内を拠点に国際競争力が維持できるだけのポテンシャルを有しています。
- ・平成18年度の三重県の製造品出荷額等は10兆7880億円であり、全国9位の高い水準となっています。

○基幹航路維持の必要性

- ・国際海上コンテナ輸送は、基幹航路における船舶の大型化と寄港地の集約化が進んでいます。
- ・現在の四日市港における基幹航路の就航状況は、北米航路が週一便です。
- ・基幹航路の減少は、国際海上コンテナ輸送における輸送時間や輸送コストの増加につながり、背後圏産業の国際競争力の低下が懸念されます。

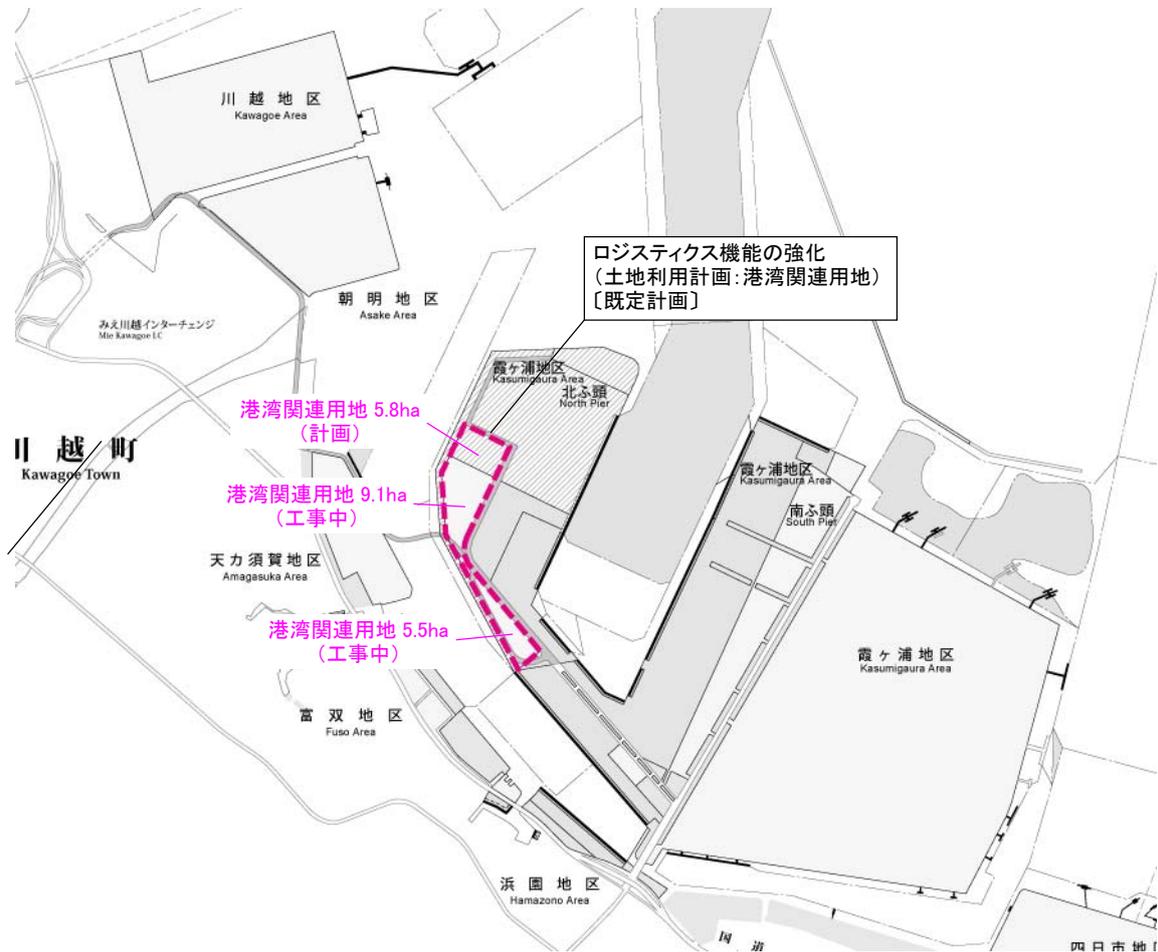


各港への基幹航路の寄港数

■ アジア域内物流への対応

(土地利用計画)

- ▶ 今後増加するアジア域内物流に対応するため、霞ヶ浦北埠頭の港湾関連用地を中心としたエリアで、ロジスティクス機能の強化に努めます。

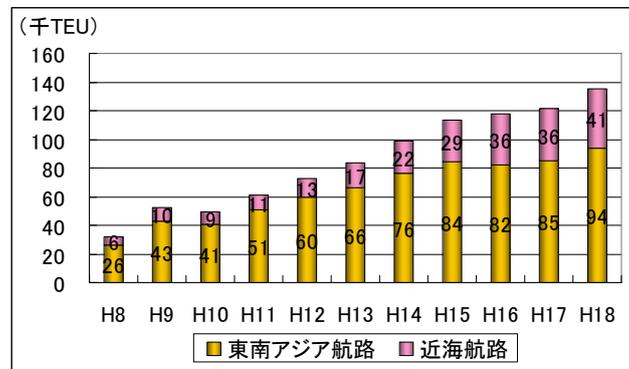


【環境の視点から】

- ・ 背後圏のコンテナ貨物を最寄港である四日市港で取扱うことは、陸上輸送にかかるCO₂排出量の削減に大きく寄与します。
- ・ 荷主ニーズに適切に対応したロジスティクス機能を拡充するための取組は、効率的で環境負荷の小さい物流体系の構築に貢献します。

【参考資料】

- ・ 経済のグローバル化が進み、東アジア地域が急成長する中で、製造業企業を中心に国際水平分業が一層進展しています。
- ・ このような情勢変化の中、荷主企業は国際水平分業を支える高度なサプライチェーンを構築するため、荷捌き、流通加工、在庫管理等のロジスティクス機能の最適化を求めています。
- ・ 三重県の輸出コンテナ貨物の輸出で約6割が、輸入で約8割が中国・近海・東南アジア方面の貨物となっています。(平成15年全国輸出入コンテナ貨物流動調査)



東南アジア・近海航路実入りコンテナ個数の推移

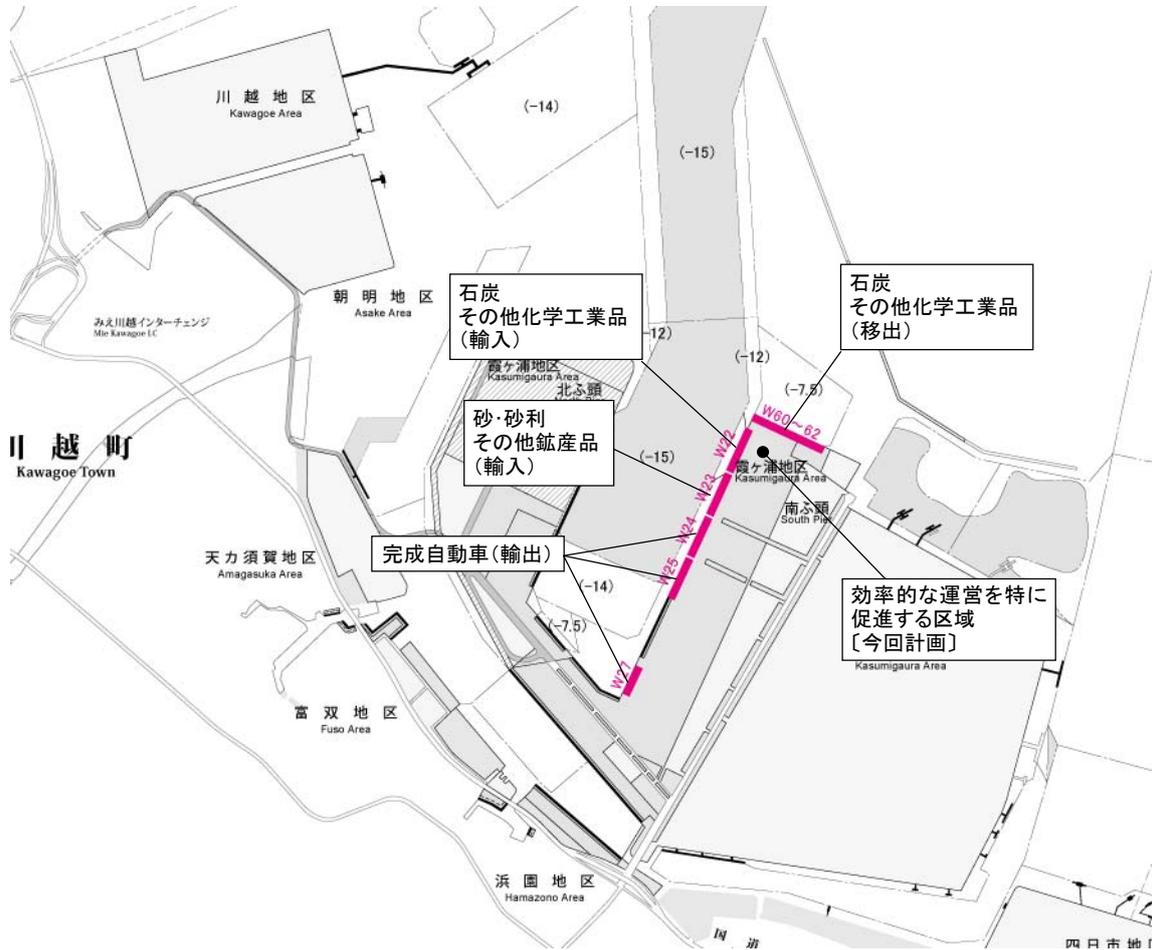


霞ヶ浦地区北埠頭(港湾関連用地)

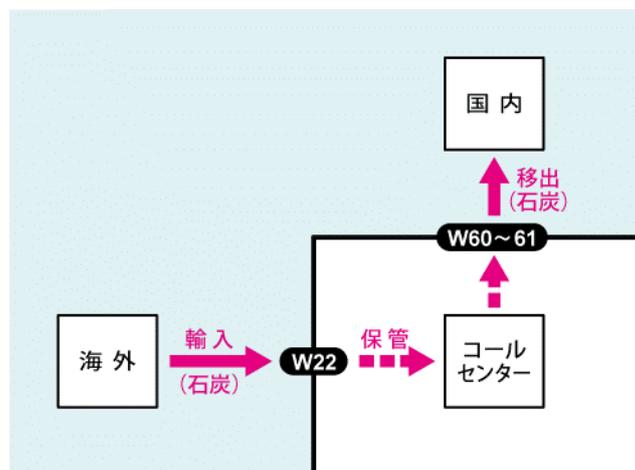
■ バルク貨物とエネルギー供給への対応と機能の充実・強化

(公共埠頭計画等)

➤ 霞ヶ浦南埠頭において、バルク貨物輸送の効率化・拠点化を図ります。



霞ヶ浦地区におけるバルク貨物の輸送パターンの現状



【環境の視点から】

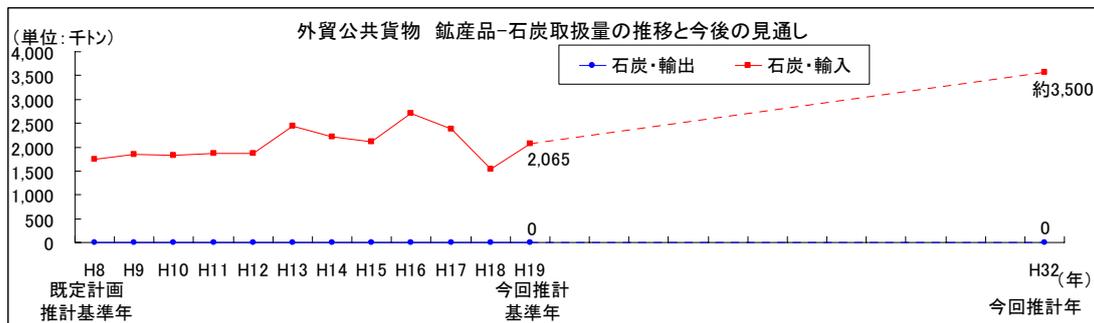
- ・船舶の大型化等に適切に対応した港湾整備を進めることは、貨物の一括大量輸送を可能とし、海上輸送にかかるCO₂排出量の削減に大きく寄与します。
- ・高能率な荷役機械や十分な面積の荷捌き地を備えるなどバルク貨物輸送の拠点化を図ることは、バルク貨物輸送の効率化を促進し、より環境負荷の小さな輸送サービスを実現します。

【参考資料】

○貨物需要見通し

〈石炭〉

- ・企業の発電用燃料としての燃料転換や船舶の大型化などによる-14m岸壁を有する四日市港への利用港湾の転換により、取扱貨物量は増加する見通しです。



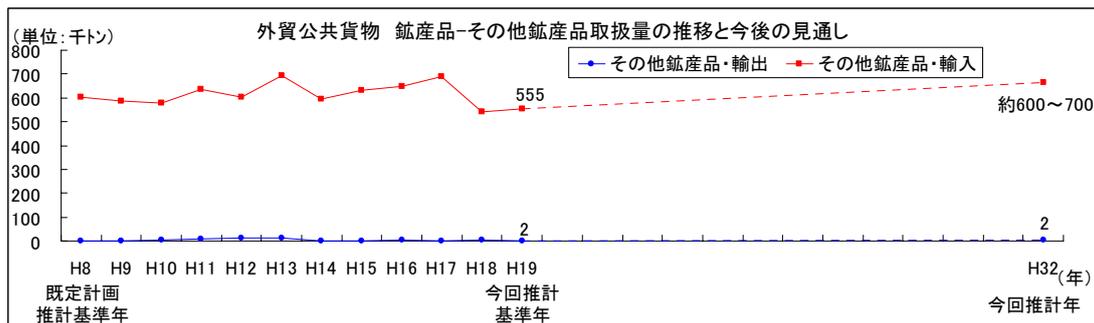
貨物量の見通し (石炭)

〈その他鉱産品〉

- ・コンビナート企業の原材料輸入として、今後も現状と同程度の取扱が続く見通しです。

（企業ヒアリングより）

- 若干生産量は落ちているが、10年後においてはH18実績程度の生産量を想定している。(化学関連企業)
- ここ数年は国内需要が好調である。今後は海外需要も増加すると考えており、輸出入量は増加傾向が続くと考えている。(化学関連企業)



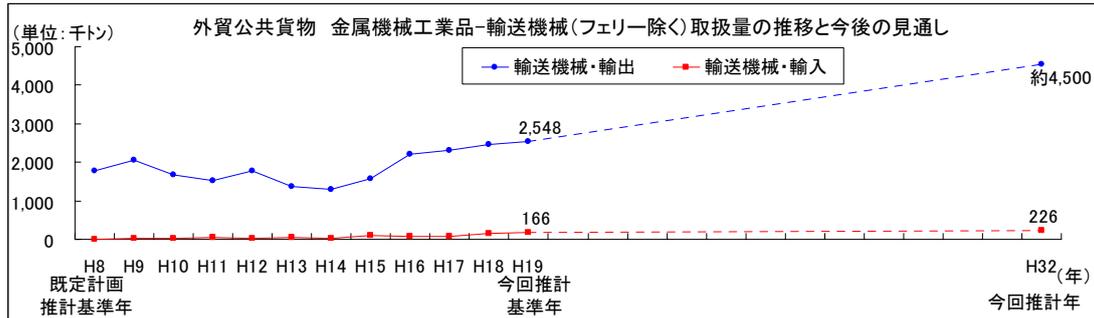
取扱貨物量の見通し (その他鉱産品)

〈輸送機械〉

・世界的な景気後退により、生産量は減少しているが、長期的には増加する見通しです。

企業ヒアリングより

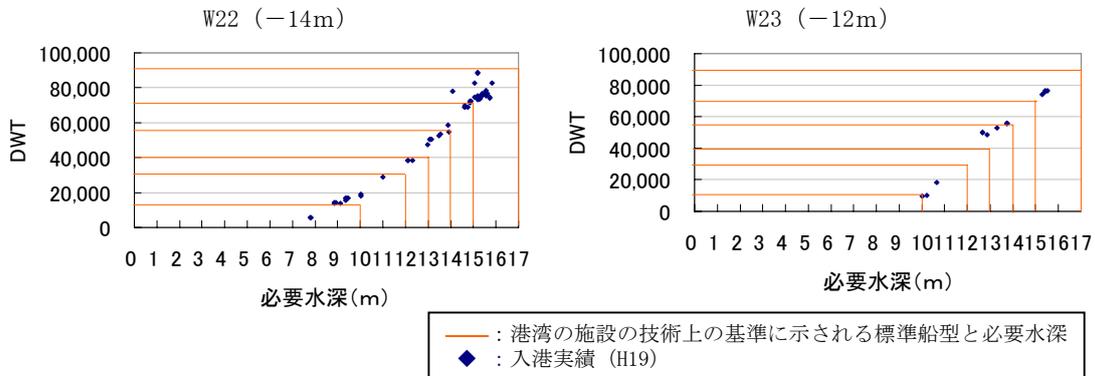
- 世界的な景気の低迷により、ここ1~2年は減少すると思われるが、このような状況の中でも、ユーザーから求められる製品を開発し、生産や販売戦略を模索しながら輸出量を増加させたい。(自動車関連企業)
- このところの世界経済情勢から、生産調整(減少)を実施しており、現時点では今後10年後の想定であれば、現状程度ではないか。(自動車関連企業)
- この秋から主力製品は減産となっているが、将来的には自動車メーカーの動向にもよるが、生産量を増加させたいと考えている。(自動車関連企業)



取扱貨物量の見通し(輸送機械)

○船舶動向

・バルクキャリアの大型化は顕著であり、W22(-14m)・W23(-12m)では足切り船舶が存在するため、増深による効率化が必要です。



外航船の船型別係留状況

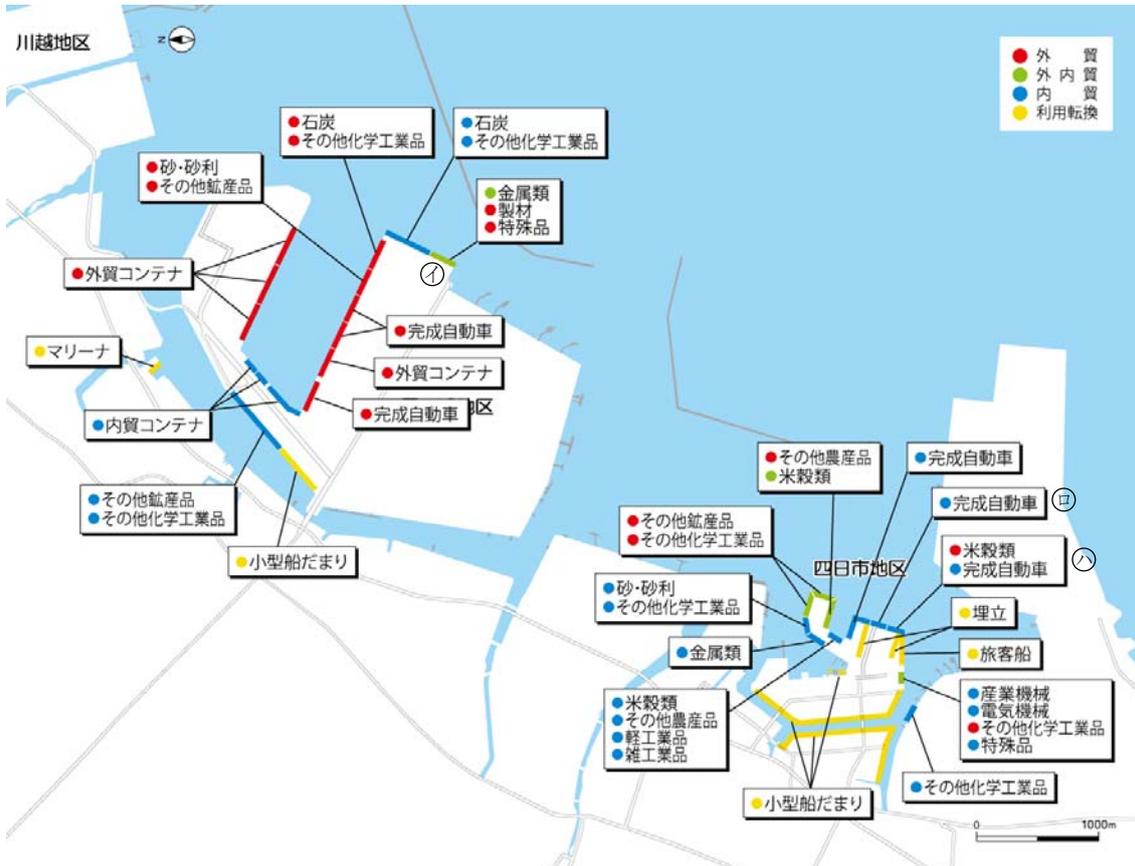


W22・23の荷役状況

■ 企業ニーズに対応した港湾サービスの提供

(公共埠頭計画)

- ▶ 四日市地区及び霞ヶ浦地区において、物流を効率化するため、港湾施設利用の集約と再編を図ります。
- ▶ 地球環境問題に対応した環境に優しい物流システムの構築に向けて、内航海運の活用や鉄道を活用など、グリーン物流の促進に努めます。



公共埠頭利用計画方針（案）

方針	内容
①品目による施設利用の集約と再編	四日市地区で混在する内外貨貨物については、内貨バラ貨物を中心に四日市地区第3埠頭に、また、それに伴い完成自動車を1~2埠頭間で取扱うなど、品目による施設利用の集約と再編を進める。
②外貨貨物の霞ヶ浦地区へのシフト	霞ヶ浦地区の施設整備に伴い、現在四日市地区で取扱っているその他鉱産品等の一部の貨物取扱を霞ヶ浦地区にシフトする。
③増大する貨物への対応	石炭（輸入・移出）、完成自動車（移出・移入）など、今後増大が見込まれる貨物に適切に対応するため、新たに公共岸壁を計画する。

新規公共埠頭計画（案）

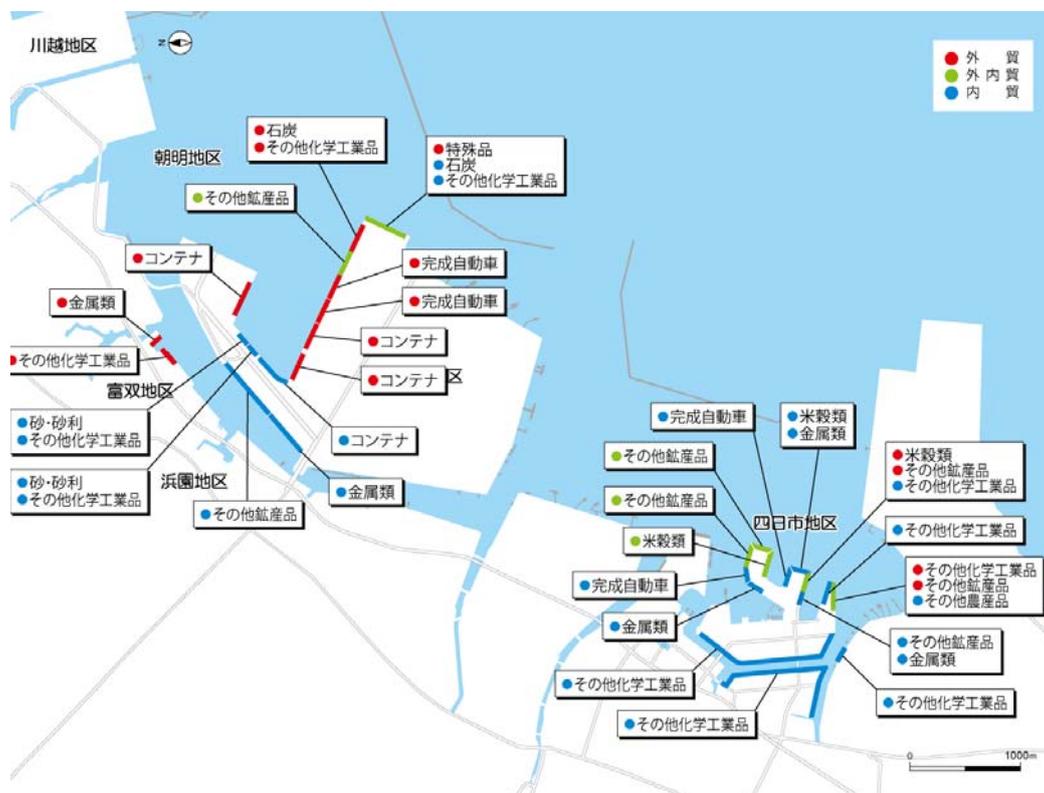
地区	規模		計画理由
	水深	延長	
① 霞ヶ浦地区	-7.5	130m	増加が見込まれる石炭・コークスの取扱や新規に取り扱いが見込まれる金属類等の輸入に対応するため、貨物取扱の再編を図るとともに、新規岸壁を計画する。
② 四日市地区	-7.0	170m	完成自動車の国内輸送の増加に伴い、四日市地区で分散する完成自動車の国内向け拠点として新たに岸壁を整備することで、集約を図る。
③ 四日市地区	-10.0	170m	

【環境の視点から】

- ・港湾機能を再編し、港湾物流の効率化を図ることは、貨物輸送にかかるCO₂の削減に寄与します。
- ・モーダルシフトに対応した港湾機能を整備することは、エネルギー効率が高く環境負荷が少ない内航海運や鉄道輸送との接続を円滑化し、グリーン物流を促進します。
- ・循環資源の取扱に適切に対応することは、循環型社会の構築に寄与します。

【参考資料】

- ・物流のより一層の効率化を図るため、霞ヶ浦地区の施設整備に伴い、将来的には物流機能を霞ヶ浦地区へシフトすることが必要です。
- ・企業ニーズに柔軟に対応するとともに、貨物取扱の混在等による非効率な事象を解決するため、取扱品目による集約など、それぞれ貨物特性に応じた施設利用の再編が必要です。
- ・石炭（輸入・移出）、完成自動車など増大が見込まれる貨物への対応が必要です。



埠頭別貨物取扱状況（H19）

【安全】

■ 港湾施設の計画的な維持管理

(大規模地震対策施設計画)

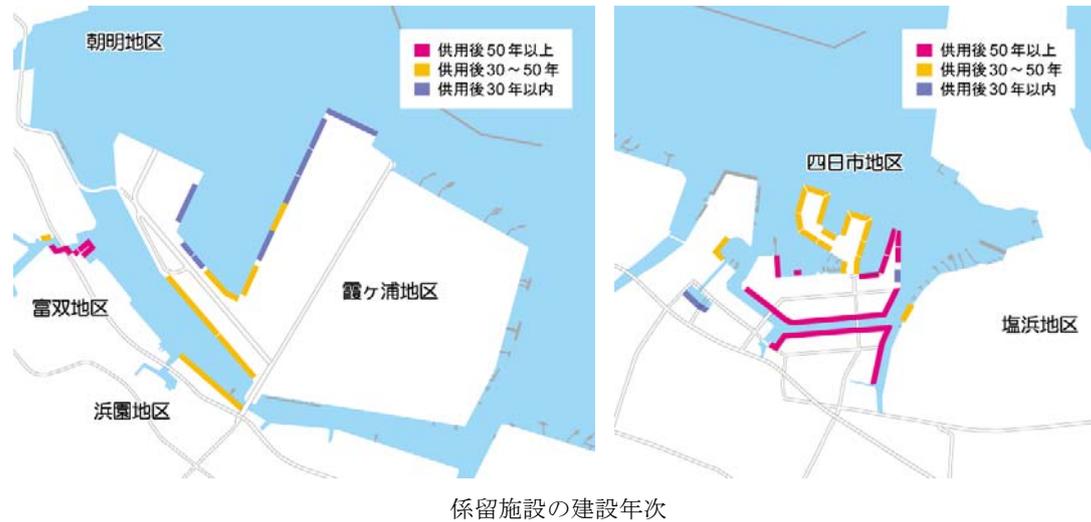
- 老朽化した港湾施設の確実な更新を進めます。
- アセットマネジメントの概念を取り入れた計画的・効率的な維持管理を行います。
- 港湾施設の計画的・効率的な維持・修繕に努めるとともに、既存施設の耐震化（コスト削減）などの改良を進めます。

【環境の視点から】

- ・港湾施設が劣化する前に予防的措置を講じて、長寿命化を進めることは、維持管理コストの最小化を図るとともに、建設資材等の縮減を図ることとなります。
- ・適切な維持管理は、既存ストックを最大限に活用することを可能とし、新たな開発を抑制します。

【参考資料】

- ・これまで整備された港湾施設の老朽化が順次進むことから、今後、更新投資が飛躍的に増大することが見込まれます。

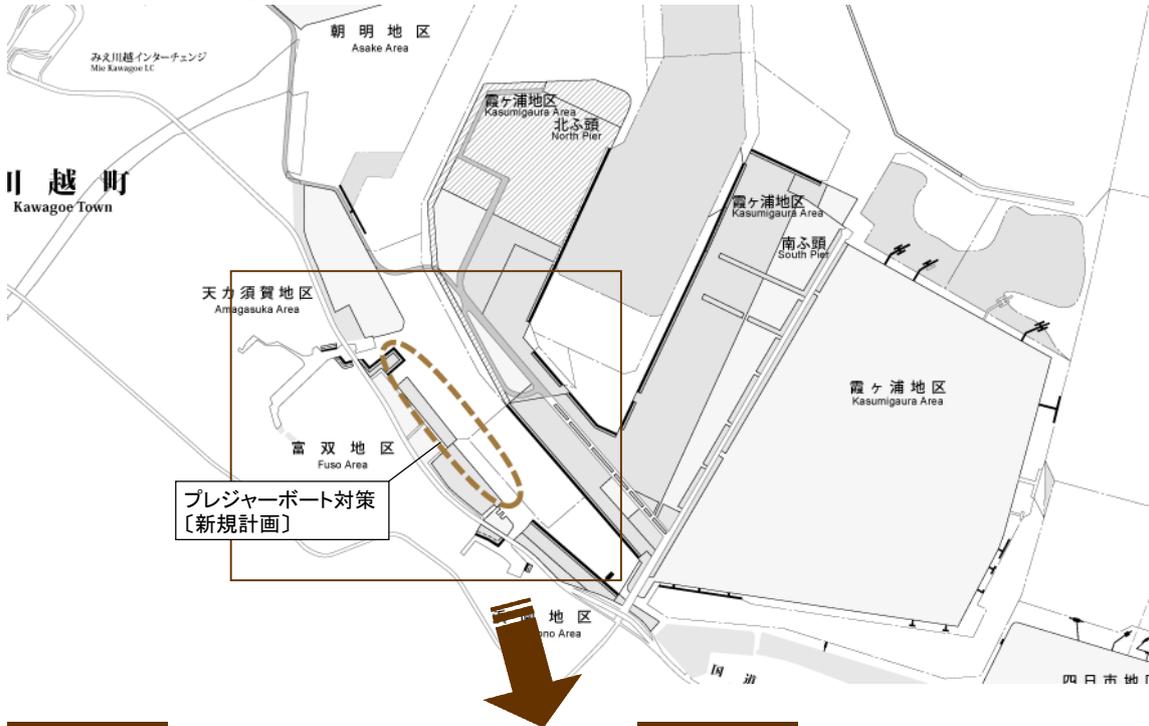


■ 船舶航行安全の確保

(水域施設計画、小型船だまり計画、マリーナ計画)

- ▶ 船舶の大型化に対応した岸壁、航路、泊地等港湾施設の適切な整備を進めます。
- ▶ プレジャーボート等の小型船舶を適正に配置させるなど、港内航行安全の確保に努めます。

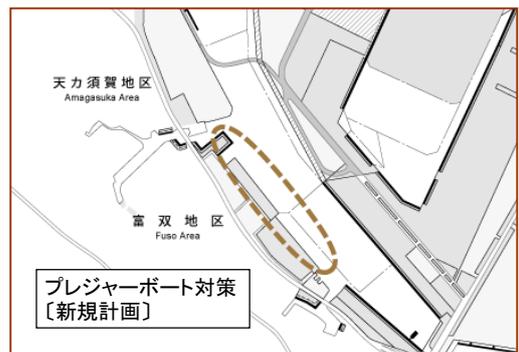
[プレジャーボート]



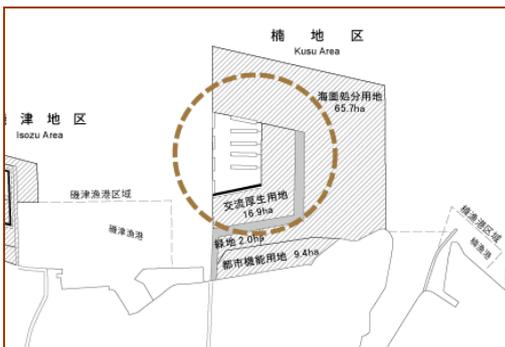
既定計画



今回計画



既定計画



今回計画



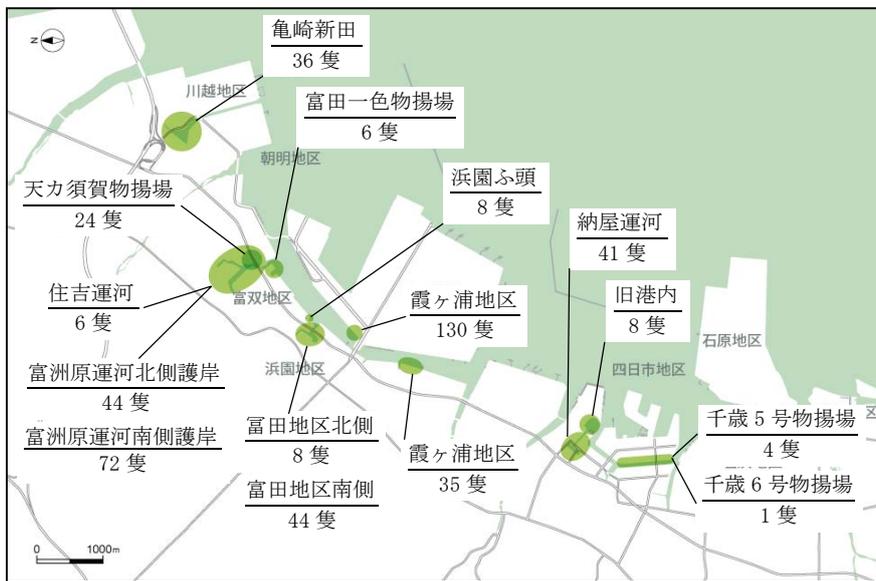
【環境の視点から】

- ・船舶の航行安全を確保することは、海難事故等による海域環境の汚染を防止し、水質の保全に寄与します。
- ・小型船舶を適切に収容できるような施設を整備するとともに、あわせて、小型船舶の放置を規制するなどの小型船舶への対応や、沈廃船や放置座礁船への適切な対応を実施することは、良好な港湾環境の保全に貢献します。

【参考資料】

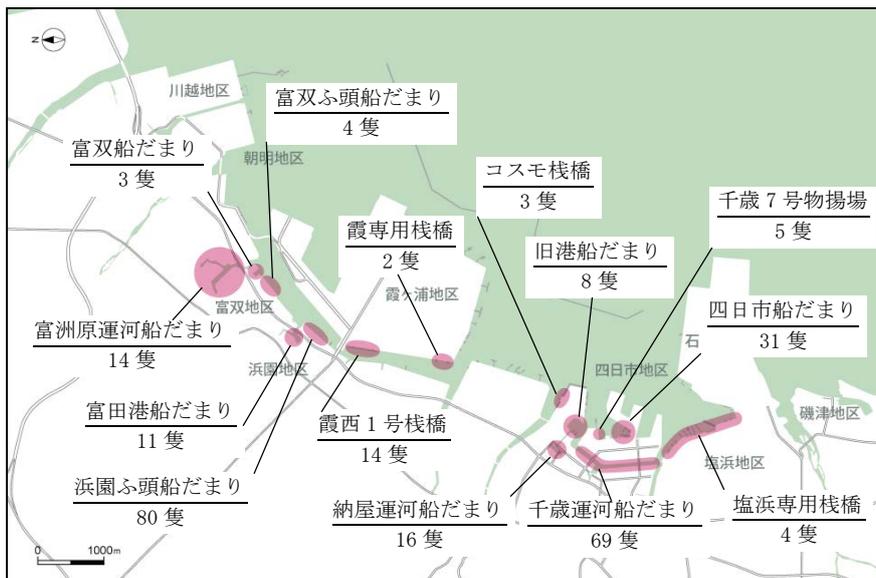
- ・海洋性レクリエーション需要に適切に対応するとともに、港内の船舶航行の安全性を確保する必要があります。
- ・プレジャーボートの将来隻数は、四日市港の傾向及び近年の情勢を考慮し、現状程度の約 500 隻で推移する見通しです。

(参考) 現状におけるプレジャーボートの分布 ～分散係留されている～



- ・小型船の将来隻数は、所有者へのアンケート調査より、現状と同程度で推移する見通しです。

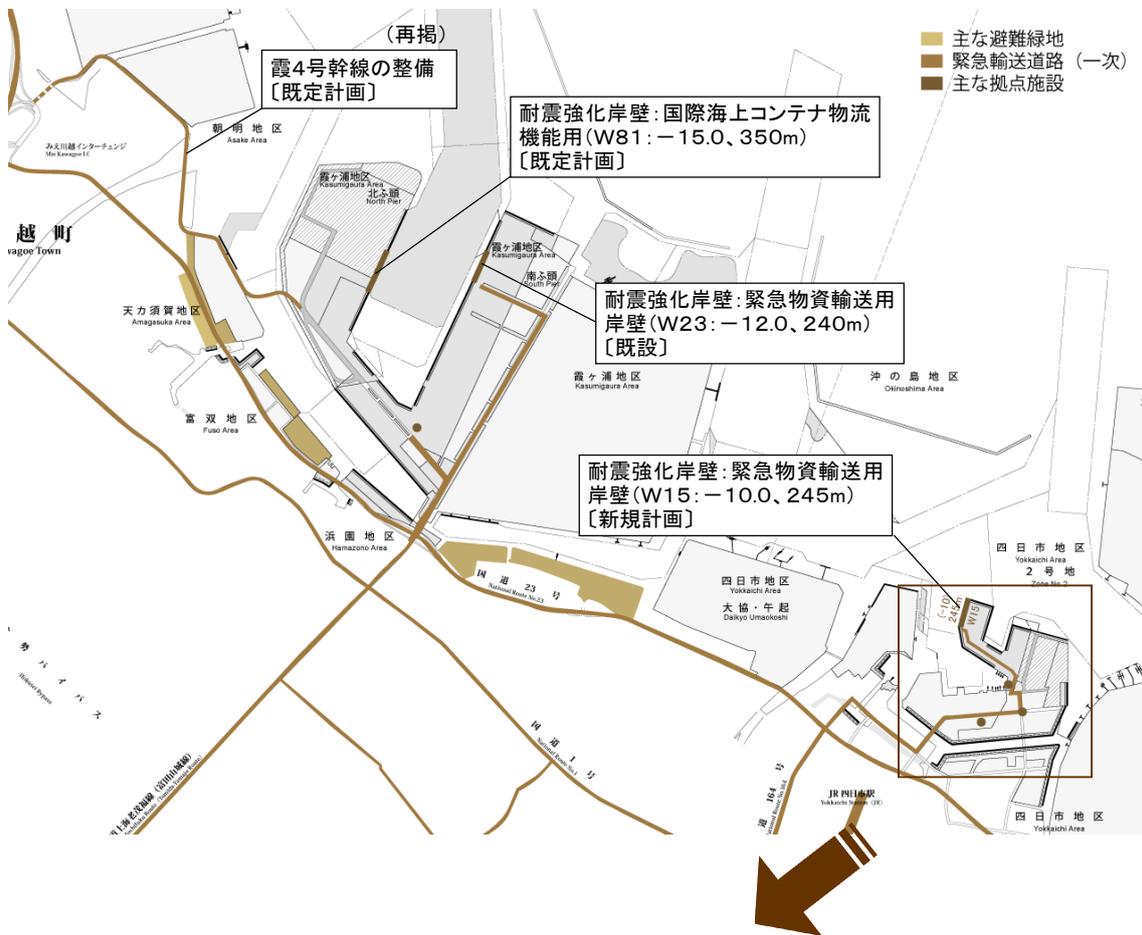
(参考) 現状における小型船の分布



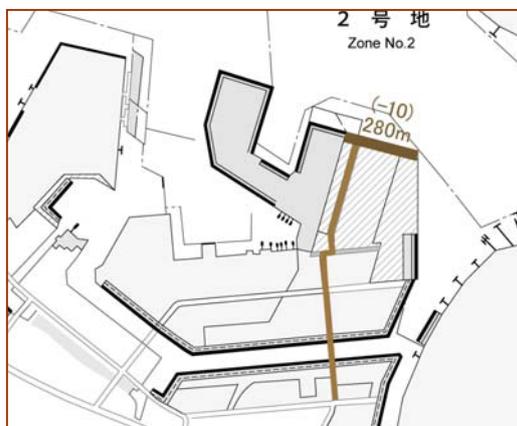
■ 災害時における物流機能の確保

(大規模地震対策施設計画)

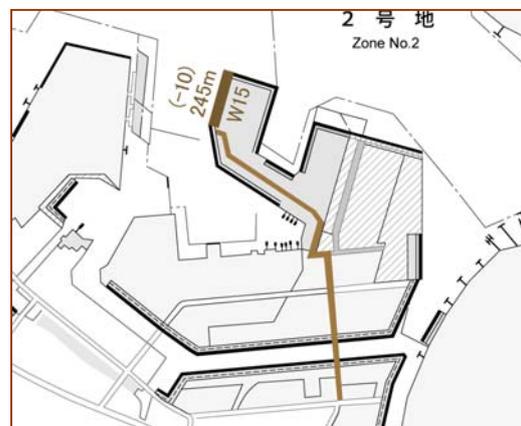
- 災害発生時においても物流機能を維持するために、霞ヶ浦地区及び四日市地区において耐震強化岸壁を新たに整備します。
- 霞ヶ浦地区へのアクセスのリダンダンシーを確保するため、臨港道路霞4号幹線の整備を進めます。



既定計画



今回計画

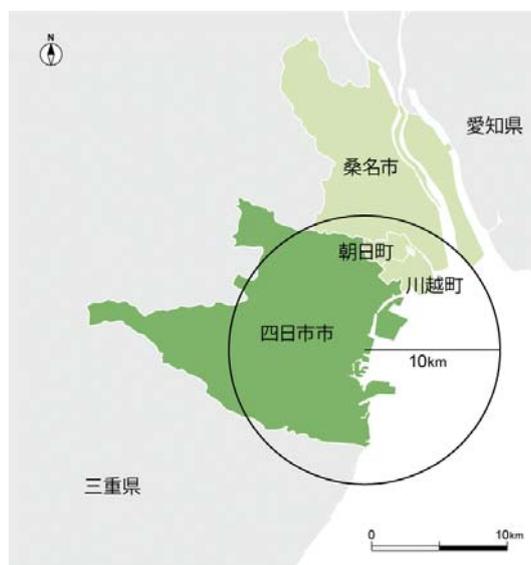


大規模地震対策施設計画（案）

地区		施設名	水深 (m)	バース 数	延長 (m)	備考	
霞ヶ浦地区	南ふ頭	霞ヶ浦南ふ頭 23号岸壁	-12	1	240	緊急物資 輸送用岸壁	既設
	北ふ頭	霞ヶ浦南ふ頭 81号岸壁	-15	1	350	幹線貨物 輸送用岸壁	既定計画
四日市地区		第3埠頭 15号岸壁	-10	1	245	緊急物資 輸送用岸壁	今回計画

【参考資料】

- ・四日市港では、概ね半径 10 km圏内の緊急物資量を担うことが求められており、そのためには 384m の耐震強化岸壁が必要となります。（臨海部防災拠点マニュアル）
- ・しかし、現在、四日市港に整備されている耐震強化岸壁は霞ヶ浦地区に 1 バース（240m）のみとなっており、更なる耐震強化岸壁の整備が期待されています。
- ・W15 は液状化対策を実施中であり、引き続き耐震化を図ることで、早期かつ経済的な整備が可能となります。



緊急物資輸送量の背後圏

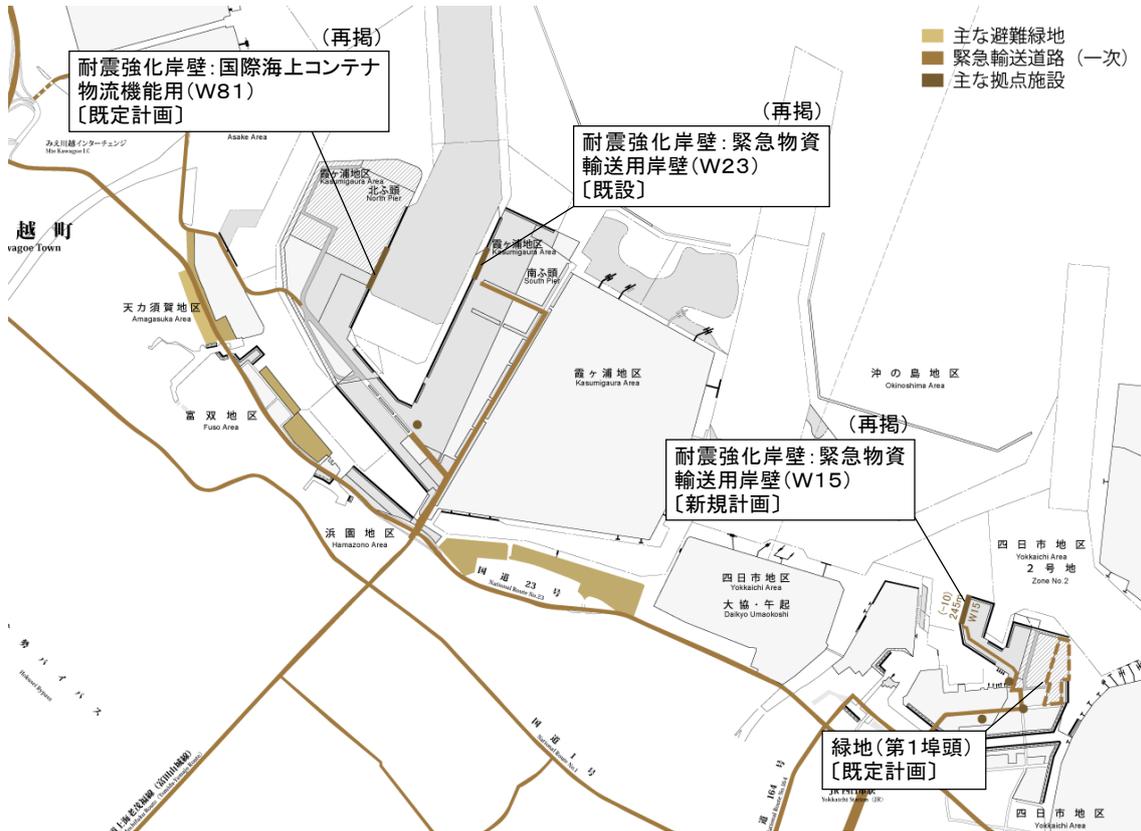
（参考）臨海部防災拠点マニュアルを基にした四日市港における耐震強化岸壁必要延長

①	背後圏人口 (港湾から 概ね10km圏内)	四日市市	307,684人	H20.10.1現在
		桑名市	141,279人	
		朝日町	8,783人	
		川越町	13,649人	
②	被災率		0.3	臨海部防災拠点マニュアル
③	港湾分担率		0.1	臨海部防災拠点マニュアル
④	港湾分担被災人口		14,142	①×②×③
⑤	一人当たり緊急物資量		40kg/人・日	臨海部防災拠点マニュアル
⑥	緊急物資量		566t/日	④×⑤
⑦	1バースあたり岸壁取扱能		250t/日・バース	臨海部防災拠点マニュアル
⑧	耐震岸壁必要整備量		2.26バース	⑥÷⑦
⑨	1バースあたり岸壁延長		170m	臨海部防災拠点マニュアル
⑩	必要岸壁延長		384m	⑧×⑨

■ 災害復興活動への支援

(大規模地震対策施設計画)

- 緊急時の物資輸送や災害復興活動を支えるため、市街地に近い四日市地区において緊急物資輸送用岸壁等の防災拠点を新たに整備します。(再掲)
- 東海・東南海地震などの大規模災害時には、災害復興活動に資するため緑地等のオープンスペースを有効に利活用し、復興活動を支えます。



【参考資料】

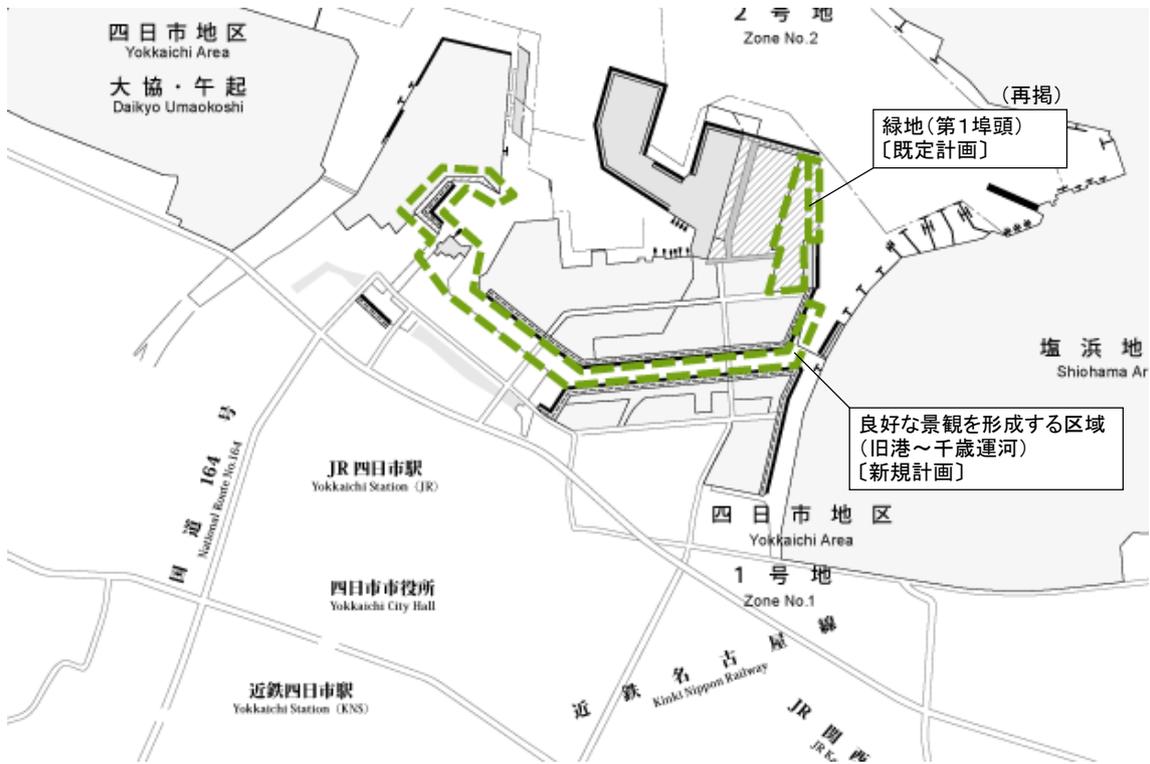
- ・ 災害時の救援、救護、復旧活動等を支援するため、耐震強化岸壁とあわせ、可能な限りのオープンスペースが必要となります。
- ・ 四日市地区への耐震バースの整備と連携し、既定計画における緑地を災害時の支援拠点として位置づける必要があります。

【交流】

■ 人が憩う、港の拠点づくり

(港湾環境整備施設計画、良好な景観を形成する区域)

- 四日市地区では、四日市市をはじめ多様な主体との協働により、千歳運河や第一埠頭を拠点とする交流空間の形成を図るとともに、港湾景観を活用した「みなとまちづくり」を進めます。



【環境の視点から】

- ・緑地を整備することは、CO₂吸収源の拡大に貢献します。
- ・千歳運河周辺の歴史的資源や港湾景観を保全し、また活用することは、美しく、魅力ある港づくりに貢献します。

【参考資料】

- ・四日市市のまちづくりと整合した、魅力あるみなとづくりが求められています。
- ・潮吹き防波堤や末広橋梁などの重要文化財や千歳運河沿いの港湾景観を活用した交流空間を形成するため、緑地を計画します。
- ・潮吹き防波堤、末広橋梁は「近代化産業遺産群」に認定されました。(平成20年度 経済産業省)



潮吹き防波堤



末広橋梁

■ 人に親しまれるアメニティ豊かな港づくりの推進

(港湾環境整備施設計画)

- 人に親しまれるアメニティ豊かな港づくりを推進するため、既存緑地の質を高めるとともに、新しい港湾緑地の整備を進めます。
- 港湾空間の魅力を向上させるため、朝明地区から霞ヶ浦地区にかけて点在する緑地などの親水空間のネットワーク化を図ります。



港湾環境整備施設計画（案）

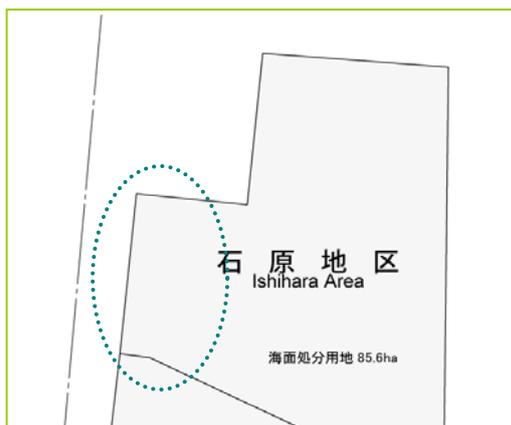
既定計画



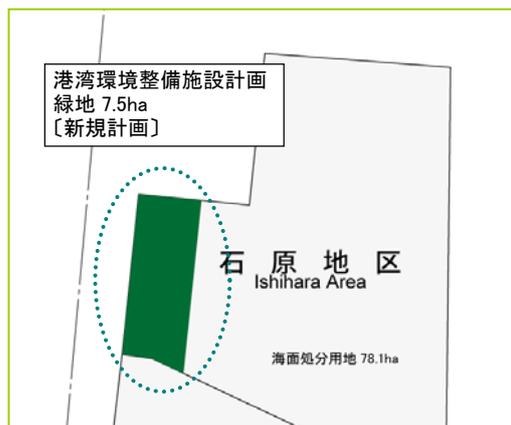
今回計画



既定計画



今回計画



【環境の視点から】

- ・緑地を整備することは、CO₂吸収源の拡大に貢献します。
- ・野鳥等が飛来する緑地を整備することは、生物多様性の保全に大きく寄与します。

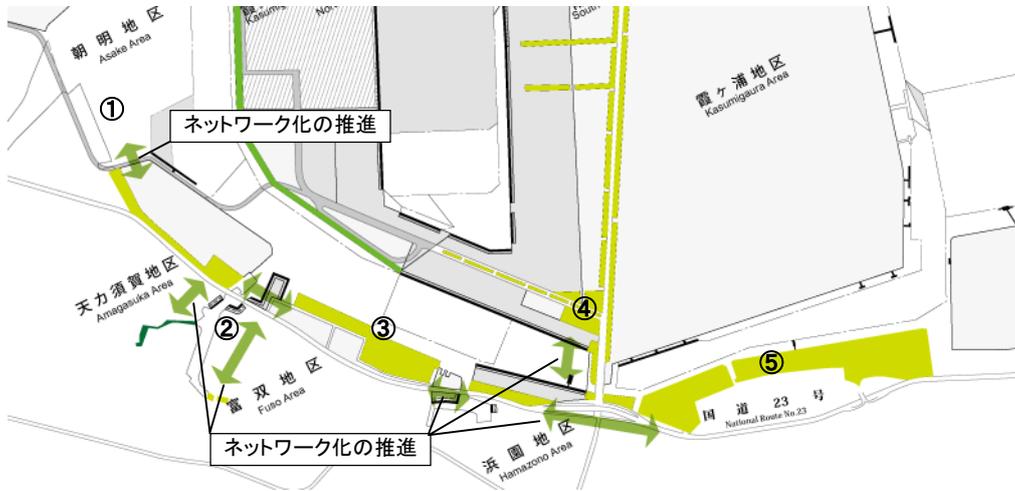
【参考資料】

- ・それぞれの緑地にデザインを統一した案内看板を設置するなど、緑地ネットワーク形成への取組を進めています。



案内看板の例

・整備が完了した富双緑地や既存の緑地と、住吉緑地等の新たな緑地の整備により、浜園地区から富双地区、天カ須賀地区、朝明地区、さらには川越地区にかけて、港湾の緑地ネットワークを形成します。



①高松干潟



④霞港公園とポートビル



②富洲原港地区の海岸遊歩道



④シドニー港公園と霞港公園



③富双緑地



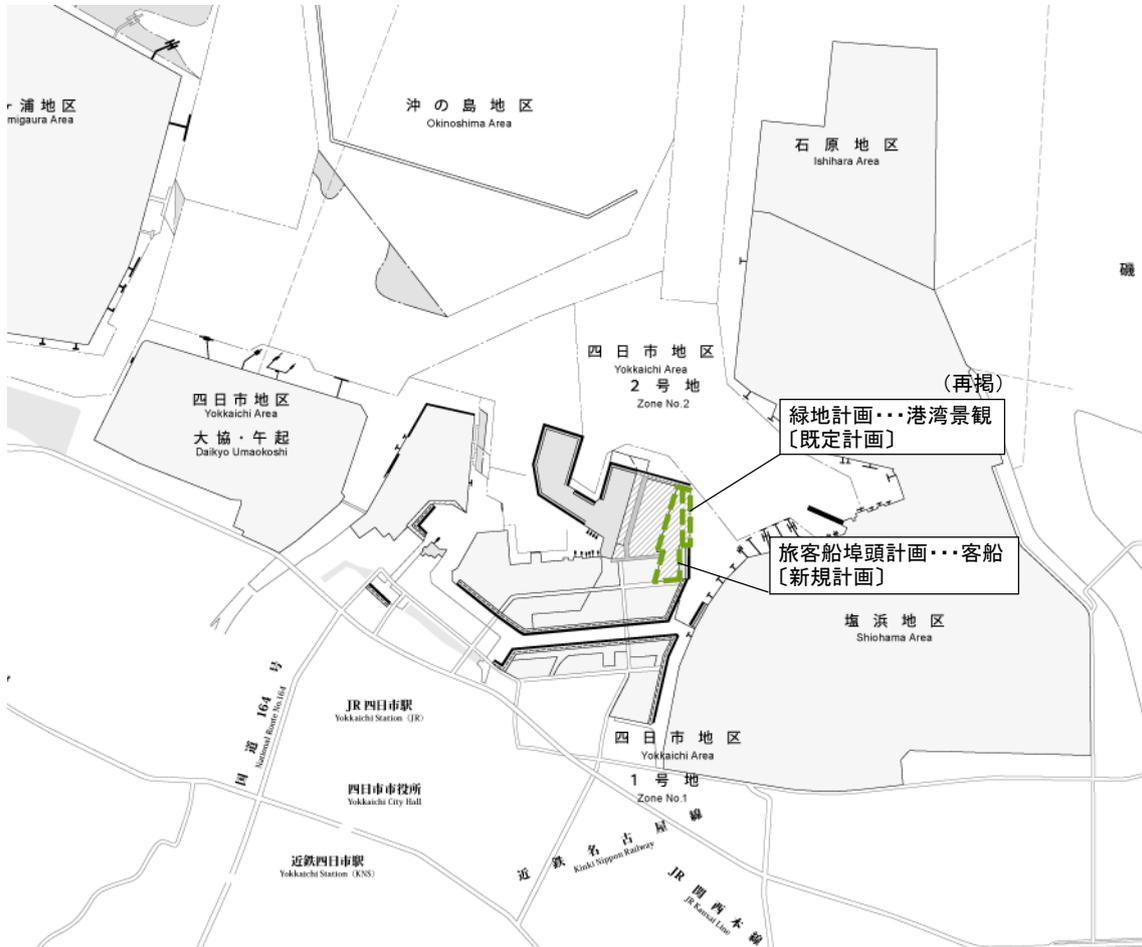
⑤霞ヶ浦緑地



■ みなと観光の振興

(旅客船埠頭計画、港湾環境整備施設計画)

➤ 港湾景観や船舶を活用した港らしさを感じる観光振興に努めます。



【参考資料】

- ・現況では主に霞ヶ浦地区へ旅客船が入港していますが、貨物取扱との調整が必要な状況にあります。



自動車船と飛鳥Ⅱ（霞ヶ浦地区南埠頭）

- ・近年は、「飛鳥Ⅱ」などの大型旅客船が入港しており、旅客船バースと背後地が一体的に利用できる施設が必要です。
- ・従来からの伊勢観光に加え、最近では、新名神高速道路（亀山JCT～草津田上IC）の開通と相まって、関東方面から京都方面への観光需要も高まりつつあります。
- ・近年は、官民一体となった国内クルーズの市場拡大や海外クルーズの招請事業も活性化しています。四日市港においても、客船誘致の活動が活発化しており、クルーズ需要は高まりを見せつつあります。

主な入港旅客船

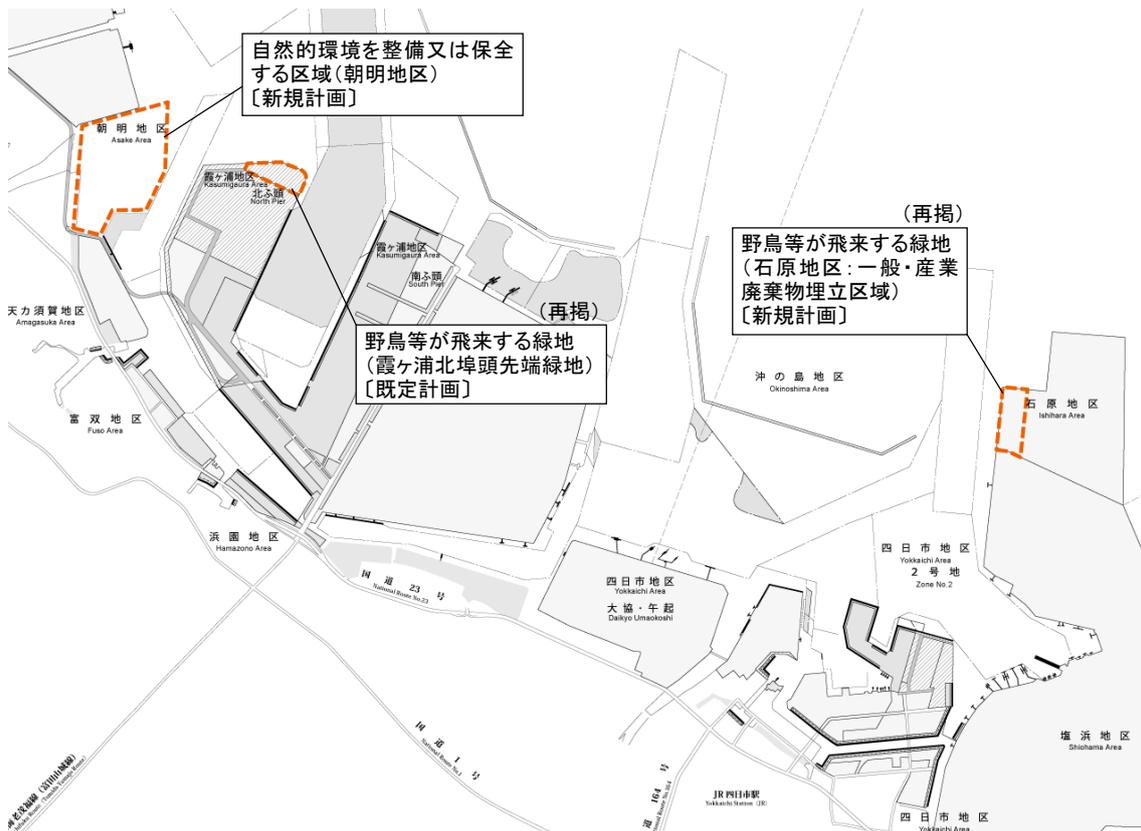
入港年月	船名	総トン数 (GT)	全長 (m)	船幅 (m)	喫水 (m)	船種
H10.10	おりえんとびーなす	21,884	175	24	6.5	客船
H10.7	鳥羽丸	2,056	40	8	2.8	フェリー
H10.8	にっぽん丸	21,903	166.6	24	6.6	客船
H11.7	鳥羽丸	2,056	40	8	2.8	フェリー
H11.8	平成1	245				客船
H11.8	鳥羽丸	2,056	40	8	2.8	フェリー
H12.5	ふじ丸	23,340	167	24	6.5	客船
H12.7	鳥羽丸	2,056	40	8	2.8	フェリー
H12.12	にっぽん丸	21,903	166.6	24	6.6	客船
H13.6	ふじ丸	23,340	167	24	6.5	客船
H13.7	鳥羽丸	2,056	40	8	2.8	フェリー
H13.11	飛鳥	28,856	193	24.7	6.7	客船
H13.12	飛鳥	28,856	193	24.7	6.7	客船
H14.7	鳥羽丸	2,399	40	8	2.8	フェリー
H14.8	ふじ丸	23,340	167	24	6.5	客船
H14.11	飛鳥	28,856	193	24.7	6.7	客船
H14.12	にっぽん丸	21,903	166.6	24	6.6	客船
H15.3	飛鳥	28,856	193	24.7	6.7	客船
H15.8	ふじ丸	23,340	167	24	6.5	客船
H15.11	飛鳥	28,856	193	24.7	6.7	客船
H16.12	にっぽん丸	21,903	166.6	24	6.6	客船
H18.6	飛鳥Ⅱ	50,142	241	29.6	7.5	客船
H18.12	にっぽん丸	21,903	166.6	24	6.6	客船
H20.1	飛鳥Ⅱ	50,142	241	29.6	7.5	客船
H20.11	飛鳥Ⅱ	50,142	241	29.6	7.5	客船

【環境】

■ 自然海浜・干潟の保全

(港湾環境整備施設計画、自然的環境を整備又は保全する区域)

- 生態系の維持や生物多様性の確保のため、自然海浜や自然干潟の保全を図ります。
- 石原地区の一般・産業廃棄物埋立区域を中心とするエリアなどにおいて、野鳥等が飛来する緑地を新たに整備します。



【参考資料】

- ・朝明地区の残された自然干潟は今後積極的に保存し次世代に継承することが必要です。
- ・また四日市港では長期構想を踏まえ、今後とも積極的に環境創造を進めます。



高松干潟

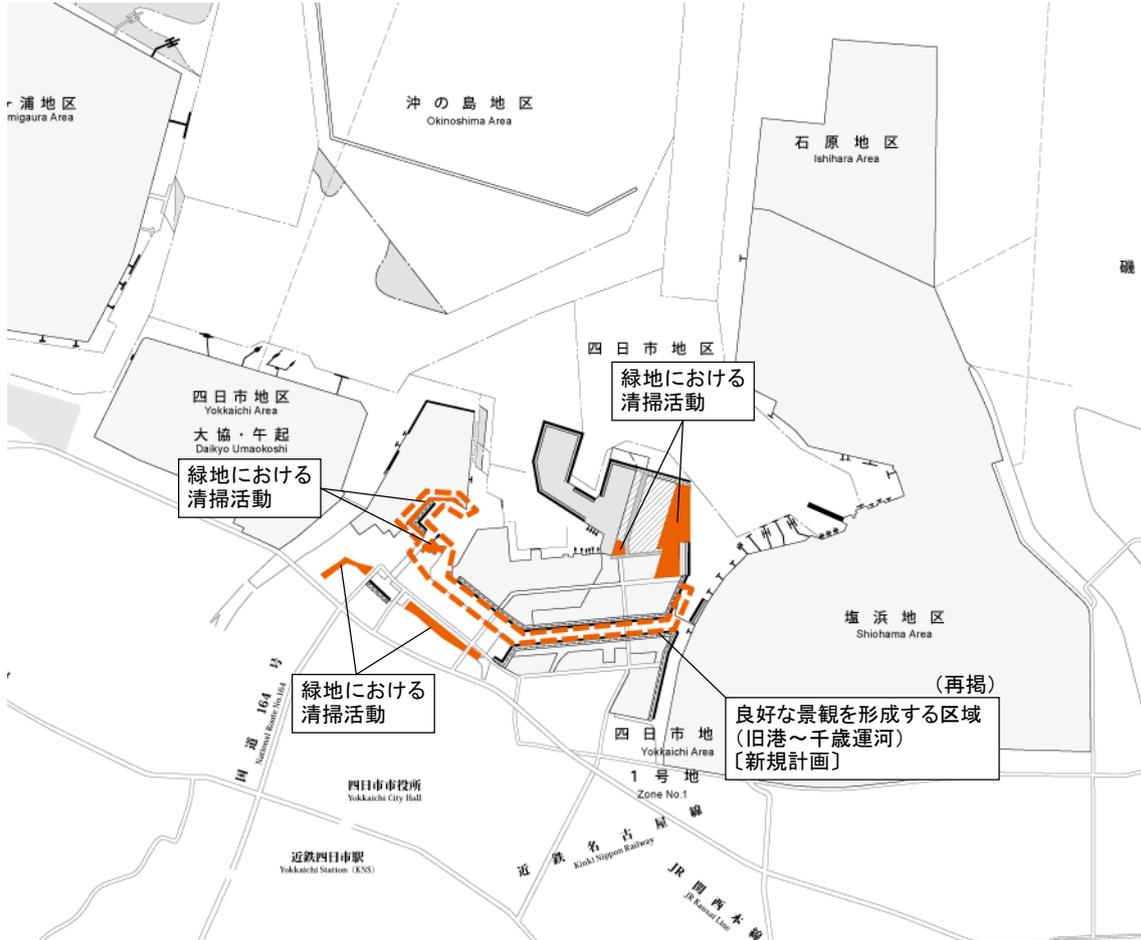


楠・磯津地区 (吉崎海岸)

■ 良好な港湾空間の保全・創出

(港湾環境整備施設計画、良好な景観を形成する区域)

- 四日市地区では、美しく魅力ある港湾空間を創出するため、多様な主体と連携しながら歴史的遺産や文化遺産、並びに貴重な港湾景観の保全を図ります。
- 良好な港湾景観を形成するため、四日市港色彩計画を推進します。
- ボランティアなど多様な主体との連携により、清掃活動を進めます。



【参考資料】

・四日市地区にある歴史的遺産や文化遺産、並びに貴重な港湾景観は今後積極的に保存し次世代に継承することが必要です。



波止改築記念碑

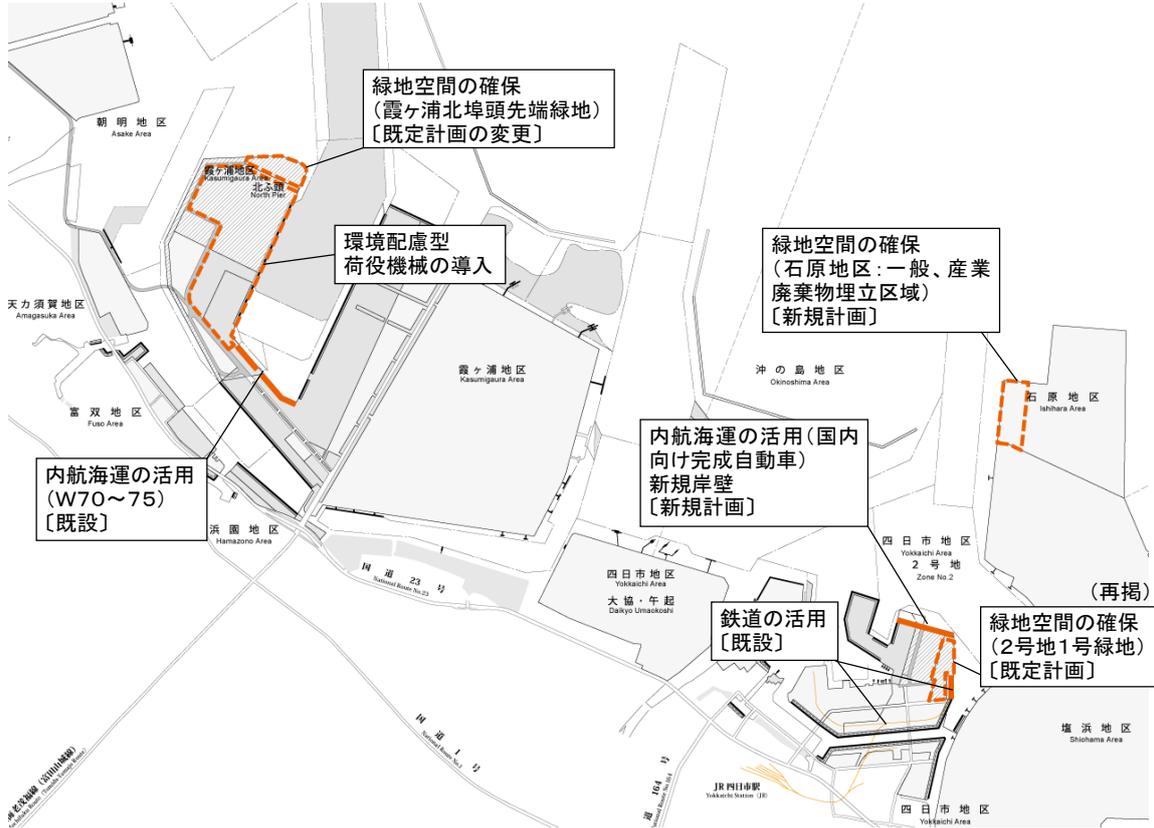


千歳運河沿いの倉庫群

■ 地球環境問題（CO₂等削減）への対応

（公共埠頭計画、港湾環境整備施設計画）

- 地球環境問題に対応した環境に優しい物流システムの構築に向けて、内航海運の活用や鉄道の活用など、グリーン物流の促進に努めます。（再掲）
- 港内において、CO₂の吸収につながる緑地空間を確保するとともに、港湾運送事業者との連携のもと、港湾活動に伴い発生するCO₂の削減に努めます。



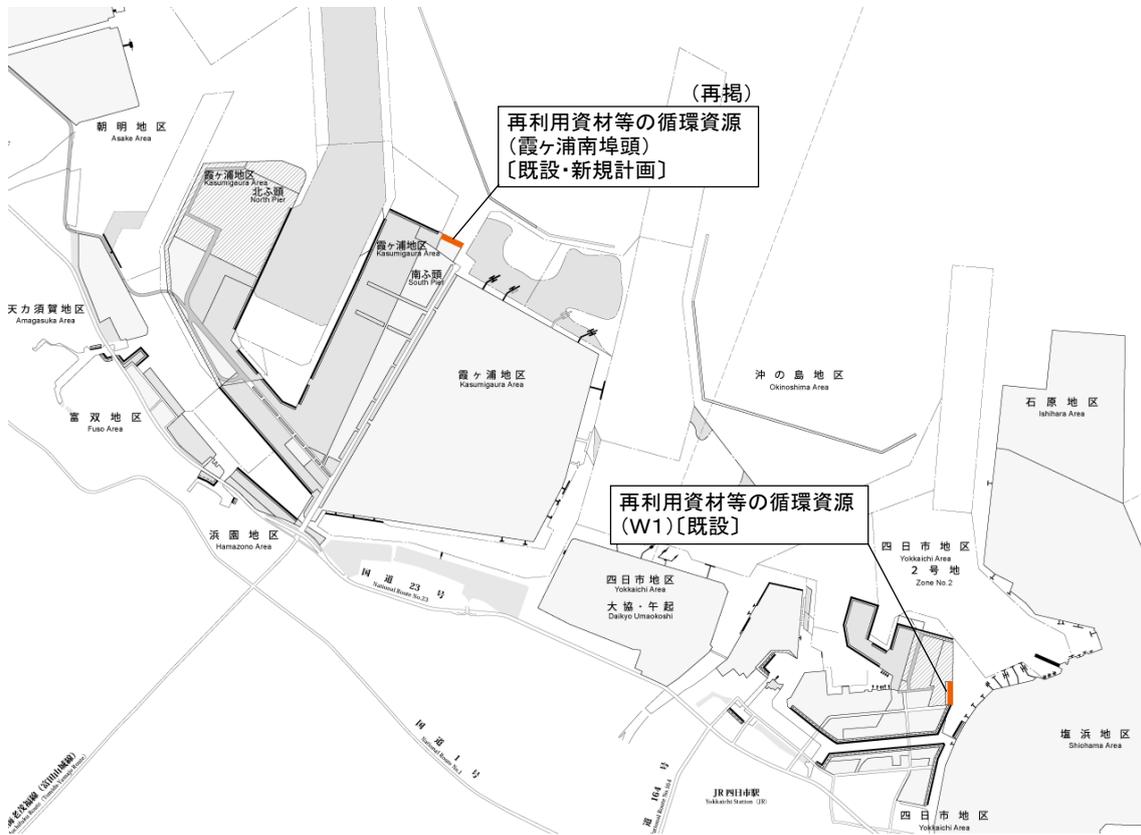
【参考資料】

- ・船舶・鉄道等の環境にやさしい輸送モードへの転換は四日市港でも今後重視すべき施策です。
- ・グリーン物流の拠点として明示することは今後の環境問題への対応として重要です。

■ 循環型社会構築への貢献

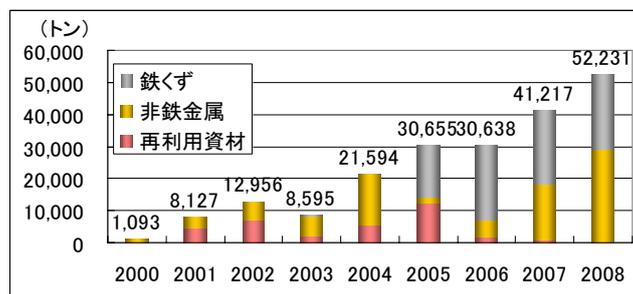
(公共埠頭計画)

- 再生利用を目的として使用済み製品等の収集・運搬をする静脈物流を促進させるため、金属くず等の循環資源の取扱機能の確保に取り組みます。



【参考資料】

・金属くずなどの循環資源は四日市港でも増加しており、これらの取扱を可能とする新規岸壁が必要です。



循環型資源取扱量の推移 (輸移出入合計)

■ 地域の環境保全に貢献

(臨港道路施設計画、港湾環境整備施設計画)

- 港湾の開発によるみなとの環境の悪化を防止するため、環境に配慮した施設計画、構造形式の採用による施設整備や保全のための取組を進めます。
- 国道 23 号の負荷を軽減する新たな臨港道路の検討など、臨港交通体系の充実により、周辺道路の渋滞解消や騒音・振動、大気環境の改善に努めます。
- プレジャーボート等の小型船舶を適正に配置させ、港内環境と周辺地域の良好な生活環境の保全を図ります。